

●Aグループ：地域における活動について

東京一極集中の解消、空き家問題を解決する中小企業の活性化、地域産業の活性化、地方の税金問題の是正、シャッター通り問題の解決などの様々な問題を解決できる方法を模索しました。ところで空き家がたくさん全国にあるのは御存じですよね。平成31年度の調査において、全国で空き家は846万戸の空き家があり、空き家率は13.55%となっています。そこで姫路の空き家を市が買い取って改装し、Wi-Fi環境を整備してベンチャー企業に貸し出す。物件は不動産と連携してPR及びオンラインで紹介するということを提案させていただきたいと思います。

まず、本事業を遂行するに当たって、幾つかの問題があります。

1つ目は、空き家の土地所有権問題の解決です。例えば、相続人がおられない。そういうときはどうすればいいのか。

2つ目は、空き家を改装する際の費用の負担。市が負担するのか、またはベンチャー企業に一部負担してもらうか。

3つ目は、大手不動産会社との連携です。官民共同での事業となりますので、大手不動産会社との連携が必要です。

4点目は、ベンチャー企業など貸出し先の企業との賃貸料の設定です。具体的に幾らにするのか、こういう場合には、ちょっと安くしますとかということです。

5点目は、ベンチャー企業などの貸出し先の企業の経営状況の悪化による賃貸料未払いが発生した際の対応。

6点目は、本事業による赤字が発生した際、具体的にどうするのか。事業の存続の是非や赤字補填など。

7点目は、市民に理解を得られるかという問題です。やはり本事業を遂行するに当たって、市民の理解は絶対に必要です。

A 地域における活動について

空き家 全国
846万戸 (平成31年度)
空き家率 13.55%

(赤) 東京一極集中の解消
空き家問題を解決する
中小企業の活性化
地域産業の活性化

シャッター通り問題の
解決
地方の税金問題の
是正
限界集落の解消

(青) 姫路の空き家を市が買い取って
改装し、Wi-Fi環境を整備してベンチャー企業に貸し出す
物件は不動産と連携して、リアル及びオンラインで紹介する

(緑) 空き家の土地所有権問題の解決
(相続人がいないなど)
空き家を改装する際の費用の負担
大手不動産会社との連携
ベンチャー企業など貸出し先の企業との
賃貸料の設定
ベンチャー企業など貸出し先の企業の
経営状況の悪化による賃貸料未払いが
発生した際のガイドラインの設定
本事業による赤字が発生した際どうするか
決める(事業の存続の是非、赤字補填など)
市民に理解を得られるための努力

●Bグループ：地域活性のためのボランティア

私たちのグループは、11番の都市の住みやすいまちづくりというので完全一致したので、それについて深めてみました。

題は地域活性のためのボランティアです。

主にボランティア活動についてを話し合ったのですが、解決策としては、ボランティア活動でやっていることを市民に知ってもらうことです。

現状、たくさんのボランティアが行われているものの知られているものが少ないということでした。

次に、駅に商店街を紹介するポスターを配置することです。

これも商店街の活性化につながるという話し合いが出ました。

3つ目は、SNSを利用し普及させるということです。

青の文の解決策として、地元企業との連携を取ることが出ました。

地元企業との連携を取るということは基本的に難しいことだと思うので、取りやすい状態を作っていきたいと思います。

メディアさんを中心に広めてもらったり、神戸新聞さんに記載していただくことを私たちのチームでは考えました。

B 地域活性のための ボランティア

- ・ボランティアに参加する。
- ・近隣の公園のホームレスの方と親しくなる。
- ・町のイベントに参加する。
- ・飲食店を利用する。
- ・ボランティアを主催する。
- ・商店街活性化のためのPR活動
(例) フェア・イベント・スポーツチームの招致
- ・ボランティア活動でやっている事を市民に知ってもらう
- ・駅に商店街を紹介するポスター配置
- ・SNS
- ・市長に直訴
- ・地元企業と連携を取る。(よりよい状態にする)
- ・神戸新聞さんに記載していただく。
- ・メディアさんに広めてもらう。

●Cグループ：技術革新の基盤をつくろう！

私たちのチームは技術革新の基盤をつくろう！ということをテーマにしました。現在、AIが結構普及している時代になっていますが、その情報技術を手段にして、姫路の魅力を世界に発信するということを目的にしています。

そのためには、まず姫路市民にデジタルに興味を持ってもらうこと。

それを行うために地域の病院や中小企業に対してAIを導入できる環境を作るということが手段になってくるのかなと思いました。

現在、コロナ禍でテレワークが進んでいる中で、テレワークに対してもAIを導入できる環境を作るということにつながっていくかなというふうに思いました。

また、その地域の交流の一環として、姫路の若い世代から高齢者に対して、デジタルの活用について共有する場を設けることも地域交流につながるかなと思いました。

私自身、先日、姫路城を訪れたんですけれども、その際にQRコードを使った観光のアピールを行っていたので、そういうことをこれからも広めていって、環境事業を中心に姫路の魅力を世界に発信していくことも大事なのかなというふうに思いました。

C 技術革新の基盤をつくろう！

・姫路市民にデジタルに興味を持ってもらう
(色んな情報を取り入れる、アイデアを広げる)

・地域の病院や中小企業に対してAIを導入できる
環境をつくる

・地域交流の一環として若い世代から高齢者へ
デジタルの活用について共有する場を設ける

・AIを手段にして姫路の魅力を世界に発信する
(情報技術)

●Dグループ：支援・募金

私たちの班では、支援や募金について考えました。

まず、寄附できる対象として、貧困で苦しんでいる人や教育を受けられていない子供たちを対象に寄附ができるなと考えました。

その寄附をする方法として、クラウドファンディングや募金などの活動をしていくことが大切だというアイデアが出ました。

クラウドファンディングなどでは、見返りとして姫路の特産物やイベント等を与えることで、たくさんの人に親しみを持ってもらえるかなという意見になりました。

このことを通して、姫路を貧困が日本一少ないまちにしていけたらいいなという結論に至りました。

D 支援・募金

○寄附できる対象
(する)

・貧困や飢餓で苦しんでいる人
・教育を受けられていない子供

○クラウドファンディングや募金
(見返りとして、姫路の特産物、イベント等を与える)

→ まず問題の現状を知る

→ 伝え方として、主に中高生や
SNSなどで発信して広げる

・メディアの特集などに応募して
発信してもらい、より発信力を大きくする

○姫路を貧困が日本1少ない町にする

●Eグループ：労働

E班では、姫路市の労働についてちょっと考えたんですけども、今現在、姫路市は企業さんも結構減ってきているような状況で、姫路市の人口もどんどん減ってきておるような状況なんで、地域の活性化で地元を愛する方をずっと姫路に残ってもらおうというのと、働きやすい環境作りをするとか、いろいろ考えています。

その働きやすい職場作りをするのには、やっぱり企業のコミュニケーションとかを増やしていくような企業の体制を整えることが大事だなということで、僕たちの班は考えました。

これからどうするかというところまでは、実際のところは話し合えてなかったんですけども、これから姫路市が盛り上がっていくような商店街の活性化とか、補助金等の商工会議所と連携して、もっとそういった商品を増やしていこうということで話し合いました。

E 労働

個人のスキルアップ

地域活性化

(地元を愛する)

働きやすい職場づくり

男女平等(雇用)

補助金等を増やす

小人数教育

自己啓発

コミュニケーション

教員の数を増やす

●F グループ：地方創生

F 班が考えたのは、地方創生についてです。

自分たちに出来ることとして、商店街の利用を増やすこと、地産地消を普及させることを考えました。

そして何ができるかということで、SNS等で商店街に何が売っているかを知る、情報発信をSNSで自分たちがする。みんなで出来ることとしては、地域の名産品を購入できるコーナーを作る。そこで商店街でインスタなどを使ってイベントを増やす。

例えば、このお店では、この商品が売っているなどを知ることが出来るような仕組みを作ったりだったり、インスタグラムの広報でイベントを実施したり、そしてプラスアルファで商店街でトライやる・ウィークの実施を行いたいと考えました。

若者が実際に働くことで、つながりを持って利用することが増えるのではないかと考えました。

F

地方創生

自分たちでできること

- ・商店街の利用を増やす
- ・地産地消

↓
・SNS等で商店街に何が売っているか知る
・情報発信

みんなができること 購

- ・地域の名産品を購入できる
コーナーを作る

↓
・商店街でインスタなどを
使ってイベントを増やす
・商店街でトライやるウィークの実施

●Gグループ：住み続けられるまちづくり

私たちGチームは、住み続けられるまちづくりをテーマに話を進めていました。こちらを選んだ理由としては、就職や進学を経ても、なお姫路に戻ってきたいという人が増えるようになればいいなと思ったからです。

これをするにあたって、自分たちでできることとして、地域イベントに参加や地域住民との交流を深めるのがいいのではないかという意見が出ました。

地域イベントというのは、例えば、まちの清掃活動であったり、運動会であったり、そういったイベントに参加すること。

地域住民との交流というのは、本当に行き帰りの「おはよう」であったり、「お帰り」であったり、ちょっとした挨拶をすることによって深まるのではないかなと思いました。

そのために、イベントがあるということを回覧板であったり、掲示板を活用して知らせることが出来るのではないかと思いました。

また、私たちが実現したいなと思ったことが、コミュニティスペースを作ること、子ども食堂を作ること、週末住人という制度を利用するということです。

コミュニティスペースというのは、高齢者、子供関係なく、気軽に自由に話すことが出来るスペースを考えてあります。

子ども食堂っていうのは親と子供と一緒に食事を作って、地域住民に振る舞うという機会があったらいいなと思いました。

週末住人というのは、農村、田舎や高齢者が住む家に学生たちが宿泊し、共に食事、仕事をして交流をするという制度があるみたいなので、そういうのも取り入れたらいいなと思いました。こういうことをするにあたって、今、Aチームが言っていたように空き家だとか、そういったものも利用して進めていけたらいいなと思いました。

G 住み続けられる
まちづくり

①自分達にできること

- ・地域イベントに参加
- ・地域住民との交流

→回覧板で知らせる
掲示板の活用

②実現してほしいこと

- ・コミュニティスペースを作る
- ・子ども食堂

→空き家、公民館の活用
週末住人(学生)

●Hグループ：姫路の町づくり

H班は、姫路の町づくりということでテーマを決めました。

このテーマを決めた理由としては、進学だったり就職だったりして姫路を離れてしまう人がやっぱり一定数いる中で、老後にまた戻ってきてもらいやすいまちだったりとか、観光で人が集まるようなまちにしたいということで、このテーマに決めました。

今すぐ、私たち自身が取り組みそうなこととしては、姫路の魅力を発信するということで、今、SNSがすごくはやっている時代なので、一人一人がSNSで姫路の魅力を発信することもできるんじゃないかなと考えております。魅力を発信するに当たって実現させたいなと思っていることが、まず姫路をアピールするイベントを開催するということです。なんですけれども、このイベント、今、このコロナがはやっている中で、イベントを開催するのは少し難しいのかなと思ったので、また別の視点で姫路のPR動画を作成するというのを案として挙げました。

このPR動画なんですけど、例えば姫路出身の有名人、お笑い芸人だったりとか、大食いタレントがいるそうなので、その方たちに協力をあおってPR動画に出演していただいて、姫路城以外の名産だったりとか特産品だったりしてアピールできたらいいなと思っています。姫路の認知度、知名度とかが上がったりすると、観光に来てもらう人たちも増えるのかなと思っているので、姫路の活性化につながっていくのではないかと考えました。

最後に、最初のほうに姫路市と神戸市が提携を結んでいるってお話で聞いたので、今、兵庫といえば神戸って言われるような中で、姫路もそこに上がっていったらいいのかなと思っています。

以上です。ありがとうございます。

H 姫路の町づくり

○今すぐ取り組みそうなこと

- ・姫路の魅力を発信する

○実現させたいと思うこと

- ・姫路をアピールするイベントを開催する
- ・姫路のPR動画を作成する
- ・神戸市との協力

○実行するのに必要なこと

- ・看板やチラシで呼びかける

○実現させるための方法

- ・姫路出身の有名人にPR動画に出演してもらい、人を集める
- ・姫路城以外の名産・特産品をつくる

● I グループ：教育

私たちの班では、教育分野について議論を深めました。

質の高い教育をするために私たちが出来ることや、今後実現したいことについて、まず意見を出しました。

ICT教育の導入やSDGsに関する授業の展開という意見が出ました。

ICT教育の導入においては、今、コロナ禍でオンライン授業の拡充などが必要とされているので、今後も柔軟な対応が出来るようにICT教育の導入をしていくべきだという意見が出ました。

そして、SDGsに関する授業の展開をするという意見で、小中学校で連携をする、または中学校、高校で連携をして、SDGsに関する授業を展開するという内容です。

SDGsの授業を年間を通してSDGsを取り扱う授業を展開して、その中で高校生が学校に出向いて、自分たちが学習しているSDGsについて小中学生に共有する。そして、留学生など外国の方との交流機会を増やす。

姉妹都市との交流をその事業の中で行う。また、留学生とも面と向かって会話するだけでなく、ICTを利用して外国にいる留学生の方と通話などオンラインでやりとりをするっていうのも良いアイデアなのではないかなと思います。

また、その事業の中でSDGsの目標にもある防災や人権リテラシーについて取り扱って授業をする。

また、SDGsの専門家を各学校に呼んで授業をするという意見も出ました。

あとは、市内に大学を作る、世代間国際交流イベントを増やす、勉強が自由に出来るところ、コワーキングスペースなどを作るという意見が出ました。ICT教育導入のために、パソコンやインターネットの使い方を講演などで子供や親にも伝えて、ICTのメリットを伝えるということが今後必要になってくるのではないかなという結論に至りました。

I 教育

(赤) ICT教育導入

(青) 小中連携・中高連携での授業展開
(小中学校で高校レベルの授業)
学生の教育環境の充実 (web, ネット環境)
留学生との交流機会を増やす
市内に大学を作る
世代間・国際交流イベントを増やす
勉強が自由に出来るところを作る

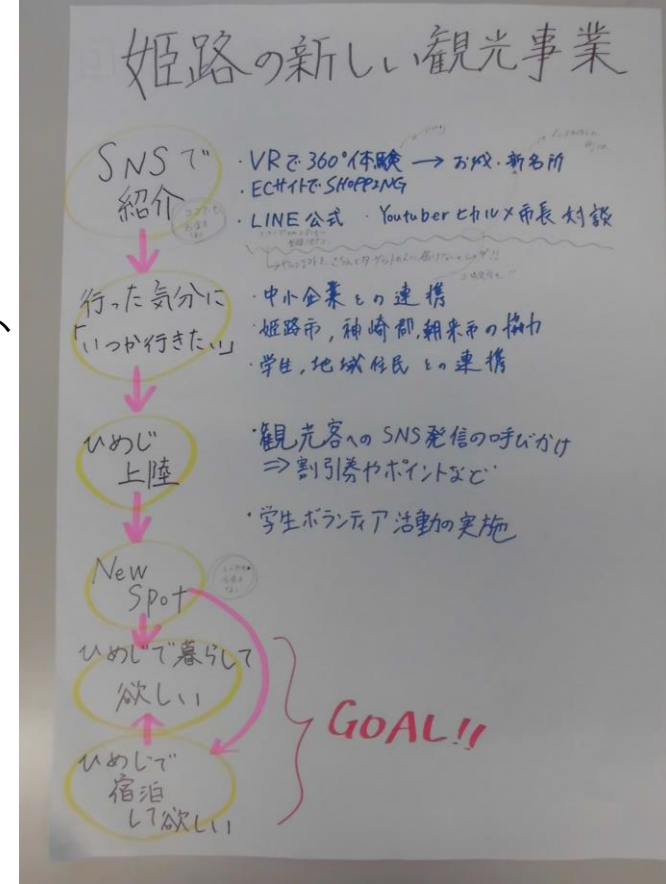
(黄) PCやインターネットの使い方を講演のなどで子供と親に伝える (ICTのメリット)

(緑) 姉妹都市との交流をより活発に
コワーキングスペースを作る
SDGsの専門家を雇用する

●Jグループ：姫路の新しい観光事業

私たちJグループは、姫路の新しい観光事業について考えました。

私自身、他県に住んでいるんですけども、やっぱり姫路の状況とか、子育てになつたらどういう情報があるのかとか、転職するんだつたらどんな企業があるのかっていうのは、ちょっと情報が拡散してしまして、でも、そういうところに住むとか暮らすってなつたときに、やっぱり姫路の財源が豊かであるってことは、すごくうれしいことだなと思って、ここは特に注力していきたいところだなと思っています。ただ、コロナの状況下の中で、姫路にお城がありますけれど直接行けない。やっぱり何か姫路にもう既にある宝を使って、SNSですとか、ちょっとここに書いてあるんですがVRで360度体験とかをして、お城とか、あとお城だけではなくて、新名所をちょっと作って、そこもPRしていけたらなと思っています。この流れを左側に書いているんですが、SNSで紹介をして、行った気分になつてもらって、いつか行きたいなと思つてもらって、姫路にやっとコロナが落ち着いて戻つてきてもらって、そのときにニュースポットとお城両方ちゃんとして行つてもらって、姫路で宿泊してほしいなと思っています。やっぱりちょっとここ課題かなと思つてしまして、姫路にあまりお金が落ちないということも聞いてしまして、どうにか姫路で宿泊できる施策を考えたいなと思っています。最終的には、姫路で暮らしてほしいなと思っています。ここ、お金を落としていただく、使つていただくシーンを2つ考えています。SNSで紹介したときに、PCサイトでそのままショッピングが出来るようにしたいなと思っています。なので、お城でしたらお城をちょっと回って行って、この場でそのグッズが買えるとか、それこそ新しい新名所、ちょっと考えているのが、中小企業さんの工場見学とか、あとは古民家カフェとかがどんどん出来ているっていうのを聞いたりもしているので、そういうところで直接購入が出来たらいいのかなと思っています。あとは、最後ですね、直接行けるようになったときには、学生さんたちとか中小企業さんにも一緒に関わっていただいて、ツアーなんかが出来たらなと思っています。



●Kグループ：ゴミを減らす⑪～⑮

K班は、ゴミを減らすというところで発表させていただきたいと思います。まず、何を減らすかということなんですけれども、姫路の大通り、市役所方面とかでペットボトルのゴミとか結構多くて、それで、それを減らしていけたらなというところで、SDGsとしては都市の住みやすさというか、きれいさを保つというところと、やっぱり企業さんが使ってそのままの責任にするってということと、個人さんが使ってそのままの責任にするっていう点でSDGsに貢献していけるんじゃないかなと思っています。

具体的に何をするかっていうんですけれども、ペットボトルの中で今、マイボトルっていうのがありまして、それを増やせていけたらなと思っています。マイボトルを使っていたくのに、企業さんの協力がどうしても必要なんですけれども、マイボトルを持ち歩いて自販機とかでコーヒーのサーバーとか紙のサーバーみたいながあると思うんですけれども、110円とか払って、あれをペットボトルに入れられるような形にしたらいいんじゃないかなと思っています。企業さんもそういうので協力していただいたら若い人らがやってくれるん違うかなというので、そこからSNSではやってお母さんとかお父さんに話したりとかして、そこからまた祖父母の方に話して行って広まってくと。企業さんもそれでメリットあるん違うかなというのと、SDGsもしてますよという点でメリットがあるんじゃないかなと思っています。

仮にマイボトルを忘れてしまったという場合なんですけれども、今ペーパーウォーターボトルっていうものがありまして、そっちだったら仮にどこかに捨てる、街頭に捨てるっていう場合でも80日したら資源に戻るっていう形になるんで、その点でSDGsにも貢献できるん違うかなと思っています。仮にそのウォーターペットボトルをそこに捨てとって、海とかに捨てていただいたとしても、それが資源に戻るので海のきれいさとかを保てるんじゃないかなと思っています。

K ゴミを減らす ⑪～⑮

⑪ ペットボトルを減らす

- ・マイボトルを持ち歩く
- ・マイボトルを忘れた人は、ペーパーウォーターボトルを使う。

⑫ マイボトル用の自動販売機を設置する

- ・水だけではなくジュース等も...

⑬ マイボトルを使う利点をつくる

- ・ポイント制にしてたまれば特典がある。
- ・持ち運びに便利なボトルがある。

⑭ 自動販売機

●Lグループ：住みやすい町づくり

私たちL班が考えたのは、住みやすいまちづくりについてです。

今すぐ取り組めそうなことはより良い環境作りです。

なぜそのように考えたかという、姫路の学校に通わせたい親が増えること、姫路の人口が増えることで活気が生まれると考えたからです。

そのために周りにない教育環境を作ることが必要だと考えました。

自然に触れる体験学習、地元企業とのコネクション作りの2つが挙げられました。

自然に触れる体験学習では、姫路には都市部だけではなく、緑もたくさんあることから考えました。

地元企業とのコネクション作りについては姫路に本社がたくさんあるからです。

これらのことにより、将来、姫路に住んで働きたいと思う人が増え、

姫路が活気付くと考えました。

L 住みやすい町作り

○今すぐ取り組めそうなこと

・より良い教育環境作り

why? 姫路の学校に通わせたい親が増える

姫路の人口が増える→活気が生まれる



周りにない教育環境を作る

・自然に触れる体験学習

・地元企業とのコネクション作り



将来、姫路に住んで

働きたいと思う人が増える

姫路が活気づく!!

●Mグループ：みんなが行きたくなる姫路に

私たちM班は、みんなが行きたくなる姫路にというテーマで話し合いました。姫路市には姫路城といって世界遺産があり、たくさんの海外や県外から観光客の方が訪れます。

なので、姫路城以外のPRポイントをもっとたくさん作ることで、もっと姫路市が人であふれるまちになるのではないかと考えました。

特に注目したのが商店街です。今の姫路にある商店街は、シャッター街のところも多く、ここを人があふれることでより良いまちづくりになると思いました。SNSでのPRについてですが、私たち世代ではインスタグラムなどの情報のほうがパンフレットよりも影響力が大きいと考えました。

インスタグラムの共有アカウントを開設することで、商店街の人が共有してアクセスでき、商店街のグッズや食べ物などを発信していくことがスムーズに行うことができるのではないかと考えました。

また観光客が楽しめる店を誘致するという点から、空き家を改装してカフェにするっていうことを考えました。

外部から古民家カフェの経営者を呼び込みます。この際、空き家を利用することで商店街の人や市の援助を受けることができることで、興味を持ってくれる経営者の方が現れると思います。また、クラウドファンディングで誘致の資金を集めることで、様々な人からの協力を得て、より良い姫路市になると考えました。

M みんなが行きたくなる姫路に

・シャッター街を無くしたい

↳ 商店街をSNSでPR

・姫路城以外のPRポイント作り

・観光客が楽しめる店を誘致

・空き屋を改装してカフェに

・Instagramの共有アカウントを開設

↳ 商店街の人が共有してアクセス

・外部から“古民家カフェ”の経営者を呼ぶ

↳ 空き屋を利用することで市や商店街に援助する

・クラウドファンディングで誘致資金を集める

●Nグループ：マリンスポーツでごみひろい

僕たちN班が考えたのは、姫路の海の豊かさを守るためにをテーマにしました。まず一人でできることは、ボランティアに参加したりポイ捨てしないことだと考えました。

まず、ポイ捨てを皆さんがしないために行える事としては、ポイ捨て禁止の看板を人が集まるところに置いて、ポイ捨てするたびに罰金を行えるような制度があればいいかなと思いました。

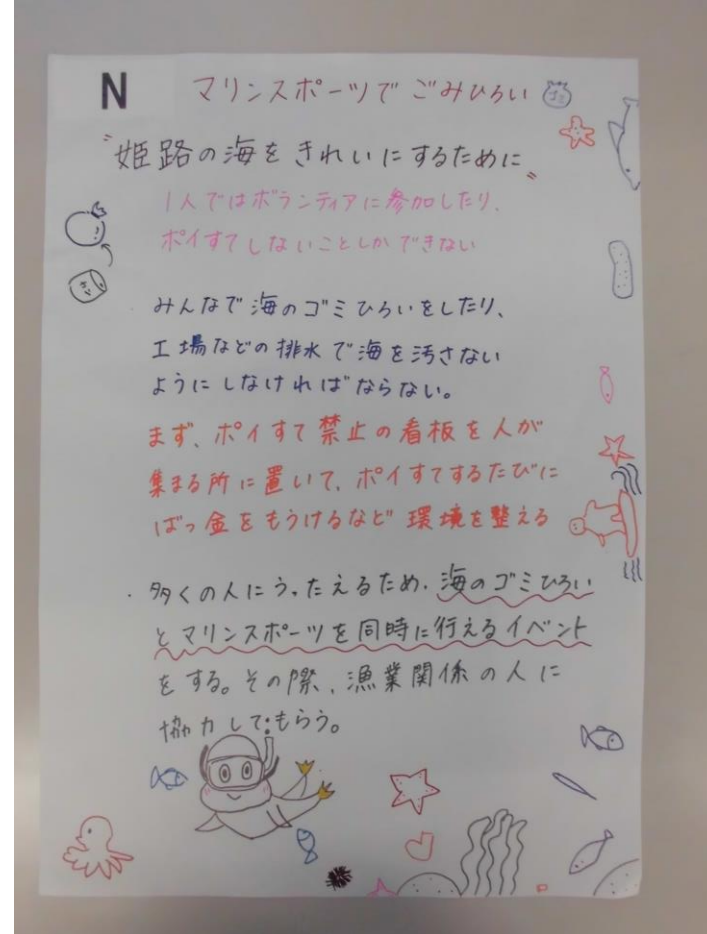
ポイ捨て禁止の看板を立てる場所の具体的な例としては、姫路駅近くとか姫路城近辺、あとは港ら辺に置いたら効果かなと思いました。

次に、みんなが行えることとしては、みんなで海のごみ拾いをしたり、工場などの排水で海を汚さないようにしたらいいかなと思いました。

姫路市は工場産業も発展してる分工場が多いので、特に海に面している南側の地域に工場が集中してるのでその辺の工場が与える影響はとても大きいと思いました。

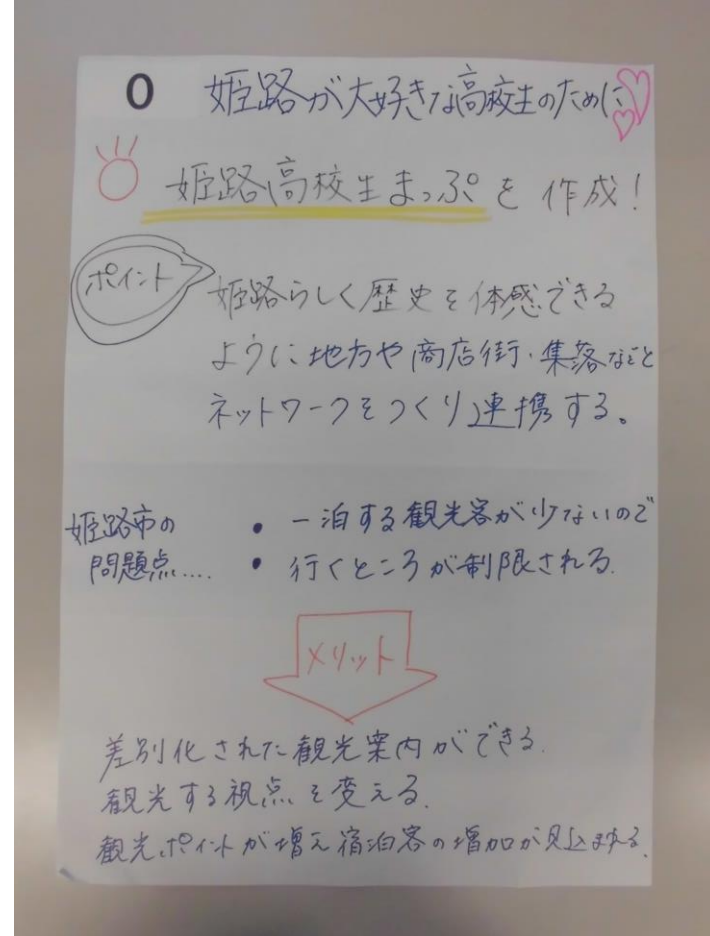
みんなで海のごみ拾いをするために海のごみ拾いとマリンスポーツを組み合わせたら、なんかおもしろいことが起きるんじゃないかなと思いました。

その際漁業関係の人に協力してもらうなどして楽しめばいいかなと思いました。



●Oグループ：姫路が大好きな高校生のために

テーマは姫路が大好きな高校生のためにということで、「姫路高校生まっぷ」を作成と。まず、問題点からちょっとお伝えすると、姫路の観光の話です。お金が全然落ちないというのは僕は問題だと思います。というところが、ここに書いています。一泊する観光客が少ない。あと、行くところが制限されているというところで、違う視点のマップが要るんじゃないかというところをちょっと深掘りさせてもらいまして、学生やから分かるポイントでマップを作ってみようじゃないかというところなんです。あと、このポイントとしては、姫路らしく歴史を体験できるように地方や商店街、集落などとネットワークを作って連携することで、エリアを広げる。エリアを広げることで、そのエリアの中で時間を有効活用してもらうと、大阪に帰ったり、いろんなところに帰ったりすることがないと思いますので、必ずここで一日を終えることによって宿泊してもらえるというメリットがあると思います。また、違う視点で、マップを作成することに差別化された観光案内が可能であると。あとは観光する視点を変えることで新たな観光スポットが出来て、新しい発見につながるかなと思います。私も世界いろいろなところ仕事で行ってたことがあって思った気付きとしては、そこの国の方が当たり前だと思うところが売れるポイントに変わると思います。僕なんかそうやったんですけどもマップとかいろんな有名な観光エリアのところに行っても余り楽しくないんですよ。じゃなくて、そのローカルのエリアの方が知ってる、ここが面白いでっていうところに行くと、すごい楽しかったという経験もあるので、そういうところをこの姫路のエリアを拡大して、地方と連携して新しい大きな観光のエリアを作ること、必ず姫路に泊まってもらえて、そして地方にもお金が流れる仕組み、ネットワークを構築していこうという形で姫路高校生まっぷ作成、これはいろんなところで使えると思います。会社員の方でも高校生だけじゃなくてもいろんなところで仕組みを得たマップという形で観光で作成ということでさせてもらいました。



●Pグループ：町づくり

僕たちP班は、町づくりで観光客を増やそうということについて話し合いました。まず、僕たち一人一人が出来ることなんですけど、姫路の魅力を僕たち一人一人が必要と思っているのが、まず一番大事なんだと思います。これは僕たちが、ほかの市や、ほかの県の人たちに姫路の魅力、住みたいなと思えるところなどを細かく伝えるぐらいまでは意識を高く持って知っておかないといけないと思います。2つ目として、様々な言語を学習しておくと思いますが、これは外国人の観光客とかが観光に来た際に、姫路城とか書写山とかの場所ぐらいの説明は出来るぐらいにしておいたらいいと思います。団体とかでも出来ることなんですけど、まず芸能人を呼ぶというのはいいいと思います。最近だとミルクボーイの一人が姫路出身ということで、呼びやすく話題性もあると思います。もう一つ、ゆるキャラ、受けを狙えるようなとか、インスタ映えとか、こんな感じでゆるキャラも作れたらなと思います。ほかはバリアフリーですね、障害者とかも観光しやすいように施設を整えたらいいと思います。Wi-Fi環境とかも、どこでもWi-Fiがつながるみたいな、そしたら観光しやすいんじゃないかなと思います。あと、新しい姫路の名産物、御当地グルメなども作ったらいいと思います。例えばですけど、めっちゃインスタ映えする姫路おでんみたいな感じなのを作ればいいと思います。

P 町づくり

・観光客を増やそう!!

・町を整備 新イベント・行事の開催
・SNSでの呼びかけ

・商店街活性化
・観光スポットでスタンプラリー
・新しい姫路のレジャー施設
・姫路城以外の観光スポット

・姫路の魅力を市民が知っておく
・様々な言語を学習しておく
・ビオレなどの商業施設に外国人用案内を!

・芸能人を呼び、ゆるキャラ作り
・バリアフリー、wifi環境の拡充
・新しい姫路の名産物・ご当地グルメ
・姫路の町の新イベント・行事などのCM